

JENESYS2024 日本・マレーシア多文化共生交流（イスラム学校高校生招へい）の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】マレーシアのイスラム学校に在籍する高校生 16 名を 1 月 8 日～15 日まで日本に招へいしました。日本とマレーシア間の宗教・教育・文化交流を通じて、日本及び日本における多文化共生社会についての理解と関心の向上、友好ネットワークの構築を主目的として実施しました。

【参加者】マレーシアのイスラム学校に在籍する高校生 15 名及び引率者 1 名 合計 16 名

【訪問地】東京都 16 名、福岡県 16 名

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）:

12 月 26 日（木曜日） 【日本理解講義】「日本の魅力」

講師：千葉大学国際未来教育基幹 教授 織田 雄一 氏

【来日前オリエンテーション】

来日までの指定期間 【課題学習（動画配信）】「事前オリエンテーション」「ホームビジット体験」「日本文化理解（京都）」「広島ピースツアー」「日本語」

■ 招へいプログラム:

1 月 8 日（水曜日） 成田国際空港より入国

【来日時オリエンテーション】

【テーマ関連講義】「日本におけるイスラム」

講師：早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科 教授 見市 建 氏

1 月 9 日（木曜日） 東京都から福岡県へ移動

【視察】タカミヤ環境ミュージアム

【テーマ関連視察】小倉城、八坂神社

【文化体験】小倉城庭園散策、小倉織体験（ストラップづくり）

1 月 10 日（金曜日） 【学校交流】敬愛高等学校

【ホストファミリー対面式・ホームステイ】

1 月 11 日（土曜日） 【ホームステイ】

1 月 12 日（日曜日） 【ホームステイ】

【ホストファミリー歓送会】

福岡県から東京都へ移動

1 月 13 日（月曜日） 【テーマ関連視察・交流】東京ジャーミイ・ディヤールナト トルコ文化センター

【視察】東京国立博物館

1 月 14 日（火曜日） 【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、SNS 発信状況等確認、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

1 月 15 日（水曜日） 成田国際空港より出国

2. 記録写真

プレプログラム（オンライン事前学習）

	
<p>2024 年 12 月 26 日【日本理解講義】「日本の魅力」 招へいプログラム</p>	<p>2024 年 12 月 26 日【日本理解講義】記念撮影</p>
	
<p>2025 年 1 月 8 日【テーマ関連講義】 「日本におけるイスラム」</p>	<p>2025 年 1 月 9 日【視察】 タカミヤ環境ミュージアム</p>
	
<p>2025 年 1 月 9 日【テーマ関連視察】小倉城</p>	<p>2025 年 1 月 9 日【テーマ関連視察】八坂神社</p>
	
<p>2025 年 1 月 9 日【文化体験】 小倉織体験（ストラップづくり）</p>	<p>2025 年 1 月 10 日【学校交流】 敬愛高等学校</p>

	
2025 年 1 月 12 日【ホストファミリー歓送会】	2025 年 1 月 13 日【テーマ関連視察・交流】東京 ジャーミイ・ディヤナト トルコ文化センター
	
2025 年 1 月 14 日【報告会】	2025 年 1 月 14 日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 高校生

ホームステイは、私たちの文化を日本の家族と分かち合い、受け入れてもらう挑戦であり、交流プログラムをさらに意味のあるものにしてくれました。そのおかげで、私は自分の文化や宗教をホストファミリーと分かち合い、プレゼント交換をしたり、ホストファミリー宅でお祈りをするをとても楽しむことができました。また、家族が決めた活動に従うことで、時間厳守や規律正しさなど、日本の日常生活にも適応しました。

◆ 高校生

正直なところ、私が切に日本を訪れたいと思っていたのは、日本人の価値観を学び、受け入れたいと思っていたからです。日本人は本当に心優しく、礼儀正しく、清潔感を重んじる国民です。他の国では到底ありえないように、彼らは誠実に生きています。私にとって、日本は安全で調和のとれた社会の本質を体現しているように思えます。私が日本に畏敬の念を抱いた最も印象的な事の一つは、路上に鍵のかかっていない自転車が盗まれもせずに置いてあるのを目撃したことです。それは、日本文化に浸透している比類なき信頼と規律の証しであり、現代世界では稀有で感動的な現象であると思います。

◆ 高校生

これまでのところ、小倉織作り体験を本当に楽しみました。面白かっただけでなく、小倉織の作り方は簡単だったので、織物にのめり込みました。小倉城のスタッフの方々も、とても親切に対応してくれました。ホームステイも忘れられない思い出になりました。ホストファミリーは3日間の滞在中、私たちに本当に親切にしてくれました。また、将来また北九州に来てホストファミリーに会うことを約束しました。ここで作った思い出は一生大切にしたいと思います。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 交流校関係者

文化や宗教によりそれぞれ異なるルールがあるのは承知していますが、今回、一番勉強になったのは食事の件でした。メニューや食材の選定、調理器具の準備等々、今までの留学生対応にはなかった経験でした。当日は、焼きうどん・餅の両方ともおかわりをしてきていたので安心しました。きな粉餅が人気だったのは、甘党が多い国だからでしょうか。

当日は臨時休校だったにも関わらず、部活動の生徒中心に手伝いの生徒が集まってくれたこと、あまり積極的にコミュニケーションを取らないかもしれないと不安に思っていたところ予想以上に交流を図ってくれていたこと、海外に行かなくても国際交流ができるというのが良かったと思います。素敵なご縁をいただき、ありがとうございました。

◆ ホストファミリー

今回の交流を通して、異文化理解が深まり、言葉を超えたコミュニケーションができたと感じました。外国の文化や考え方を尊重し、ともに学びあう姿勢が大切だと実感しました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	
<p>2025 年月 1 月 9 日（Instagram） 北九州 1 日目</p> <p>タカミヤ環境博物館訪問は非常に有益で、目を見張るような体験でした。最も印象的だったのは、北九州市が海や大気の汚染を克服し、わずか 30 年で町を美しく清潔な元の状態に戻すことに成功したことです。今、北九州市が最も環境に配慮している都市の一つになっていることは、称賛に値します。他の国々も北九州市から多くを学ぶことができます。今回 JENESYSASEAN が提供してくれたこのような機会がなければ、環境について多くを学ぶことはなく、タカミヤ環境ミュージアムを訪れることもなかったと思います。</p>	<p>2025 年 1 月 11 日（Instagram）</p> <p>昨夜はお父さん、お母さんと過ごしましたが、人生で最高の一日となりました。私たちに日本の伝統的な衣装である着物を着せてくださり、私たちのために茶道を披露してくださいました。この思い出を生涯大切にしていきたいと思います。</p>



2025 年 1 月 12 日 (Instagram)

日本のホストファミリー

私たちを温かく迎えてくださった皆さま、本当にありがとうございました。何か失礼なことがありましたら、この場を借りてお詫び申し上げます。必ずまた北九州に戻り、次回は家族と一緒に皆さまを訪問したいと思います。本当にありがとうございました。

2025 年 1 月 11 日 (敬愛中学校・敬愛高等学校のブログ)

「マレーシアの高校生と交流しました」



2025 年 1 月 22 日 (M TOWN WEEKLY)

マレーシアの高校生 15 人、JENESYS プログラムで訪日









2025 年 1 月 14 日 (駐日マレーシア大使館の HP)

「JENESYS 日本・マレーシア多文化共生交流(イスラム学校高校生招へい)プログラムの報告会」

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：東京都、福岡県 全2グループ発表

グループ A		
		
<p>【成果の発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 敬愛高校で学んだこと 学校の清潔さを保つよう、校舎に入る前に上履きに履き替えています。 トイレの床が濡れないように気を付けています。 自分のゴミは自分で管理するなど生徒に自主性を持たせた活動をしています。 ● タカミヤ環境ミュージアムで学んだこと 北九州市は 30 年かけて、行政、市民、工場などが協力して、水と空気をきれいにするための取り組みを行い、公害を克服しました。 ● 小倉織 小倉織とマレーシアの織物との類似性や、小倉城で作られた耐久性の高い織物について理解を深めました。 <p>【アクション・プラン】</p> <p>学校に設置されたゴミ箱は、不潔な環境を生む根源となっているので、一人ひとりがゴミ袋を持ち歩いて、自分のゴミに対して責任をもつ「ONE STUDENT, ONE TRASHBAG」というキャンペーンを展開し、校内の美化を目指します。参加者が先生の補助の元、全校学生に向けて、新学期（2 月）の 1 週目に日本での体験を共有し、このキャンペーンを実施します。</p>		
グループ B		
		
<p>【成果の発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人とのコミュニケーションを通じて、語学教育を強化しました。 ・茶道、東京国立博物館見学を通して、日本文化を学びました。 ・北九州市における 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の実施と複数の環境汚染の克服について理解を深めました。 <p>【アクション・プラン】</p> <p>日本での経験や日本人の時間厳守、国の遺産を保護する姿勢について、文化啓発ウェビナー、SNS や新聞記事への投稿、そして日常生活での実践を通じて、家族・友人・近隣の人へ共有します。</p>		
実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）		